

防災減災学術連携委員会（第 26 期・第 9 回）

議事要旨

第 7 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」として開催
テーマ「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」

日 時：令和 7 年 8 月 19 日（火）14:00～17:30

会 場：ハイブリッド開催

現地会場：日本学術会議 講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

オンライン：Zoom ミーティング

出席者： 竹内徹（委員長）、目黒公郎（副委員長）、永野正行（幹事）、有働恵子、大原美保、
神原咲子、菊地優、高橋良和、寶馨、田村和夫、中村尚、久田嘉章、平田直、森
口祐一、若尾政希（15 名）

欠席者： 山本佳世子（幹事）、今村文彦、臼田裕一郎、遠藤薫、多々納裕一、坪倉正治、平
田京子（7 名）

事務局： 新田浩史、角田美知子、野田太輝、佐藤有純

<その他の出席者>

日本学術会議関係：三枝信子（日本学術会議副会長）

府省庁関係：森久保司（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当））

磯部良太（国土交通省 水管理・国土保全局 防災課防災企画官）

三森雅之（厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課課長補佐）

穂積直樹（総務省 自治行政局 公務員部公務員課 応援派遣室長）

その他傍聴者

学協会関係：加藤孝明（地域安全学会）

小野祐輔（土木学会）

酒井明子（日本災害看護学会）

青田良介（日本災害復興学会）

その他傍聴者

全出席者 133 名（うちオンライン出席者 69 名）

議 題：

- 1) 開会挨拶
- 2) 挨拶 内閣府防災監
- 3) 防災減災学術連携委員会の見解案の発表
- 4) 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する府省庁の取り組み
- 5) 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する学協会
の発表
- 6) 全体意見交換
- 7) 閉会挨拶

議 事：

- 1) 開会挨拶
 - ・日本学術会議・三枝信子副会長より、開会のご挨拶があった。
- 2) 挨拶 内閣府防災監
 - ・内閣府防災監の長橋和久氏より、本会開催に向けてのご挨拶があった。
- 3) 防災減災学術連携委員会の見解案の発表 ・「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく
広域地域災害への備え」
 - ・防災減災学術連携委員会、委員長・竹内徹氏、副委員長・目黒公郎氏、日本学術会議連
携会員（特任）・大西正光氏より、防災減災学術連携委員会の見解案の説明があった。
- 4) 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する府省庁の
取り組み
 - ・内閣府(防災担当)、国交省、厚労省、総務省講演者よりそれぞれ南海トラフ巨大地震の
被害想定、対応する法改正と緊急災害対策派遣隊、福祉的支援の取り組み、応急対策職
員派遣制度について紹介があった。

南海トラフ巨大地震の被害想定と実施すべき防災対策について

内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当） 森久保司 氏
防災・減災に関する最近の取り組みについて

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課防災企画官 磯部良太 氏
福祉的支援の取り組み強化について

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課課長補佐 三森雅之 氏

応急対策職員派遣制度の概要、令和6年能登半島地震を踏まえた対応等について

総務省 自治行政局 公務員部公務員課 応援派遣室長 穂積直樹 氏

5) 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する学協会の発表

- ・地域安全学会、土木学会、日本災害看護学会、日本災害復興学会よりそれぞれ法制度や仕組み、インフラ等の継続性確保、福祉的配慮・災害関連死問題、広域支援体制に関する調査報告があった。

法制度や仕組みについて 地域安全学会 加藤孝明 氏

インフラ等の継続性確保について 土木学会 小野祐輔 氏

福祉的配慮、災害関連死問題について 日本災害看護学会 酒井明子 氏

広域支援体制について 日本災害復興学会 青田良介 氏

6) 全体意見交換

- ・防災学術連携体・米田雅子代表幹事の司会により、意見交換が行われた。
- ・複合災害への備え、国によるプッシュ型の指揮体制、海側からの救助体制を強化すべき。
- ・総合化した科学を活用する仕組み、地方自治体等の役割分担を構築して欲しい。
- ・次世代に繋がる人材育成を進めてほしい。
- ・東日本大震災の震災関連死の教訓が生かされていない。
- ・関連死を学問的に定義すべき。個人ではなく大規模なチームで行政支援できる仕組みを。
- ・官民での総力戦を国主導で進化させるべき。地域の産業、建設業を想定した防災対策を。
- ・気象災害の原因となる地球温暖化の抑制をどう考えているか。
- ・脱炭素社会を国民一人一人がなかなか本気になってくれない。誰かに任せる状況ではなく、自分事として捉えてもらう啓蒙活動が必要。
- ・学術会議からの提言をいくつか発出済み。総力戦で前に進みたい。
- ・地球温暖化に伴う豪雨+熱中症などの複合災害に対し、想定外をなくす事前の対策が重要。
- ・能登では初めて国が歴史の保全活動に関わってくれた。応援派遣を民間レベルで。
- ・見解案は非常に素晴らしい内容。災害関連死に関わる数字については補償とは別の医学的基準が必要。
- ・提供されている知見を現場で活かす知恵が必要。経験した自治体の声は重要。
- ・見解案、それぞれの発表、いずれも説得力があった。防災庁では俯瞰した制度設計を。
- ・関連死については府省庁側がなかなか言えないことも、学術界の方で学術的意見として発信してほしい。

7) 閉会挨拶

- ・防災学術連携体・渦岡良介代表幹事より、本日の連絡会のまとめと今後に向けての展望を含めた、閉会挨拶があった。

以上